

科目名	現代思想				
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n)を参照		
開講期	春学期	開講学部等	文化学部	配当年次	2年次
教員名	藤高 和輝			単位数	2単位

授業概要／Course outline

この講義は現代思想に関する基本的な理解を育むことを目標とします。現代思想の「現代(contemporary)」は「同時代」をも意味します。したがって、現代思想は私たちが生きているこの時代に生まれた思想であり、そして、この時代をいかに認識、思考し、生きるかを考えるものでもあります。この講義では、「現代」を考える上で重要な思想家の哲学をいくつか紹介・解説します。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

- ・ICTを活用した授業（形態：遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））
- ・オンデマンド動画による授業がある。

授業内容・授業計画／Course description・plan

1. イントロダクション——哲学とは何か？そして、現代思想とは？
 2. 近代哲学とは——デカルトを中心に
 3. 現代思想の始点（1）——フロイトの精神分析
 4. 現代思想の始点（2）——マルクスの唯物論①
 5. 現代思想の始点（2）——マルクスの唯物論②
 6. 現代思想の始点（3）——フッサールの現象学
- ★オンデマンド授業 これまでのまとめ
7. 中間テスト
 8. ラカンの精神分析——「私」とは何か
 9. メルロ＝ポンティの現象学——身体とは何か
 10. メルロ＝ポンティとファノン——人種の問題
 11. メルロ＝ポンティとボーヴォワール——ジェンダーの問題
 12. フーコーの生権力論——規律権力と管理権力
 13. フーコーからバトラーへ——ジュディス・バトラーの「ジェンダー・トラブル」
 14. まとめと期末テスト

事前・事後学修／Preparation and assignments

※事前学習は各授業2時間、事後学習も各授業2時間必要です。下記の内容を確認して、しっかりと事前・事後学習を行うようにしてください。

【事前学習】

第1回～第14回：講義で取り上げる哲学者の議論にかかわる資料を提示しますので予習をしてから講義に出席するようにしてください。

【事後学習】

第1回～第14回：授業で配布した資料等を読み返すなどしてしっかりと復習をしておいてください。

授業の到達目標／Expected outcome

授業の到達目標は、現代思想の基本的な理解を培うことを通して、「自明」で「当たり前」と考えていた事象に対して「なぜ？」と問いかける批判的思考の癖を身につけることです。

身につく資質・能力／Competencies to be attained

- ・思考力
 - ・倫理性
- 専門知識・専門技能
【文化学部 国際文化学科】
・人文学に関する知識

履修上の注意／Special notes, cautions

哲学に関する予備知識は必要ありません。哲学者の思想に触れて、「常識」に縛られず自分の頭で考えるようにしてください。積極的な質問や意見を歓迎します。

評価方法／Evaluation	
期末テスト（50％）、中間テスト（50％）	
教 材／Text and materials	
教科書は用いません。資料は講義内で提示・配布します。	
質問や相談の方法／Instructor contact	
藤高（kazukin@cc.kyoto-su.ac.jp）までご連絡ください。	
その他／Others	
個別のご相談は随時受け付けます。	